

中経 論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



社会人となり、一定の経験を積み、初めて管理者の立場に立った時、これからメンバー全員をやる気を引き出し、チームの共通目標を達成して会社全体の業績向上にいかに関与するか、そのために自ら行うべきことは何か、という行いを日々真剣に考えたことを懐かしく思い出す。

組織についての定義は、「ある目的を達成するためある。」
ある目的を達成するためある。30代後半に管理職になり、や下位集団から構成されるメンバーと初めて対面した

団(広辞苑)「特定の役割・機能をもつ人々が集まって、1つの秩序ある集団を構成すること」(明鏡国語辞典)など、色々と説明表現が違うが、私は組織とは、最適な解答を得るための有効な手段の一つと理解している。そうした組織を活性化できるか否かは、その組織を率いるリーダーの資質・能力にかかっていることとは言うまでもないが、とりわけメンバーをその気にさせるプラスの影響力を常に発揮できる力量がリーダーに備わっていることが重要な要件である。

未来志向の組織運営とは

時、「まず一言」と告げ、述べたのが五つの「F」である。それは、FAIR(公平、公正)、FRANK(率直)、FLAT(平ら、文鎮型)、FREE(自由気まま)、FLEXIBLE(柔軟)の5項目で、これららみなど共同で仕事をしていく時の私の基本姿勢であると表明した。

以後、定年まで新天地に就いて最初にあいさつする時は、この五つの「F」をまず伝え、この基本姿勢の軸をぶらさずとなく、組織運営を行った。現役時代、さまざま部署を経験させてもらったが、幸いにして行く

先々でメンバーからの信頼も得られ、部内のコミュニケーションも活発になり、躍動感を実感できる貴重な体験をしたと思っっている。今でも昔の仲間と会うと「あの時代は最高でした」など、感想をもらされるとうれしくなる。

定年後、経営コンサルタントを経て、現在、父が創業した中小企業の社長を継承しているが、ものづくり産業においては、先述の五つの「F」にプラスして三つの「F」、すなわち、FAST(速攻)、FOCUS(焦点、的)、FRESH(新鮮)を組織の隅々まで浸透することの大事さを実感している。AI、IoTなどの技術革新が進む一方、さまざまハラスメントの被害が増えて

いる中で、環境変化に柔軟に対応するためには、組織運営の在り方についても、基本スタンスを尊重しつつ、未来志向の発想と進化が求められていることを、経営者として自戒している。

505「F」+33「F」